

News Letter vol.61 2013.01.15

韓国 忠南大学に滞在して

派遣期間: 2012.09.03~2012.11.30

派遣国名:大韓民国 受入機関:韓国国立忠南大学校

2012年9月3日より3ヶ月間、韓国の大田広域市（以後、大田市）にある忠南大学校に滞在しました。大田市は韓国の中央部に位置し、ソウルからKTX（韓国の新幹線）で1時間、釜山から1時間半の場所にあります。福岡からソウルは飛行機で約80分なので、東京より近く感じます。人口は韓国では第5番目で150万人ほどです。福岡市とほぼ同じぐらいでしょうか。昔は儒城温泉で有名な農村地帯でしたが、政府の積極的な誘致活動で、Daedeok Innopolisとよばれる開発特区が出来ました。大学、政府、政府研究所（軍の施設も含む）、企業研究所などが数多くあり、アジアのシリコンバレーとも呼ばれています。首都機能の一部も移転しています。また1993年に万博も開催されたこともあり、市内は綺麗に整備されています。



写真1 大田市内の幹線道路になびく国旗



写真2 紅葉で綺麗なキャンパス

忠南大学校のキャンパスは広大かつ綺麗で、大学というより公園に思えます。サクラ、イチョウ、モミジなど様々な樹木が植えられていて一年中、四季を感じられます。一般の方も自由に散策をしています。煮詰まったときはキャンパスの芝の上で寝転がれば、スッパリして良いアイデアも浮かぶのではないのでしょうか？

忠南大学校は全部で16学部あります。興味深いのは獣医学部が独立していて、犬のクローン研究に力を入れていることです。さて農業生命科学部は12学科に分かれています。驚いたのは農業生命科学部に日本

語を話せる先生がたくさんいたことです。日本の大学（例えば鳥取大学、東京大学）でPhDを取得されたようです。そのためか日本人に対しては非常に好意的に接して頂きました。韓国とは政治的には複雑ですが、研究の世界では無関係でした。

私は環境素材工学科（Dep. of Biobased materials）に籍を置きました。もともと環境森林資源学科という学名でしたが、2010年の改組で現在の名称になりました。「森林」という単語が消えて寂しい気がしました。大講座制でスタッフは6人と少ないですが、木材乾燥、木質材料、木構造、木材保存、パルプなどの研究が精力的に行われています。

今回の派遣では乾燥中の木材の変形挙動をデジタル画像相関法で可視化する内容でした。実験準備や実験中は実験装置を管理している学生にお世話になりました。初対面の人と英語で意思の疎通、しかも技術的な議論は難しく、苦労しました。今回の派遣で一番の収穫は、研究活動はもちろんですが、人とのつながりの大切さを学んだことです。お世話になった先生に仁川空港で開口一番、「3ヶ月間、研究ばかりしないで楽しみなさい。行きたいところがあったら、連れて行ってあげるから。」と言われました。研究も大切ですが、時には旅行に出かけて異国の文化を知り、多くの人々に会い、ソジュ（韓国の焼酎）で乾杯しながら、互いに日本語と英語と韓国語を駆使してビジネスからプライベートまで内容まで話をします。会話を通して、信頼関係を築き、共同研究まで話が進んだこともありました。そんな機会が得られたことが一番でした。今回の派遣で人とのつながりの重要性を再認識しました。最後にこのような派遣の機会を頂いた本プログラムの関係者の方々に厚くお礼申し上げます。



写真3 セミナーで研究紹介